

令和5年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立みはま支援学校 校長名：岡 潔

目指す学校像・育てたい生徒像

- ・病弱の児童生徒の実態や特性をふまえ、一人一人が自分らしく生きる力を身に付けられるよう専門性を生かした教育を実践します。
- ・様々な学習経験やまわりの人との関わりを通して、自分を大切に育てる児童生徒を育てます。
- ・教職員がそれぞれの責務を自覚するとともに、互いに協力・尊重し、地域から必要とされる活力ある学校づくりに努めます。

学校評価の公表方法

学校HPに概要を公表する。
学校運営協議会等で概要を説明する。

現状・進捗度

A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)
D	不十分である。(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（2月1日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗	進捗状況	
1	児童生徒の障害等の多様化に対応できるよう丁寧な実態把握に基づいた授業づくりを実践する。	B	公開授業の実施や学部研修をとおして、育てたい児童生徒像を目指した指導を進める。 経年的なアセスメント実施の仕組みを校内で整備し、学校全体で実態把握のための知識（スキル）の向上を図る。 中堅教員を中心に実施する研究授業を通じ、外部有識者から学ぶ機会を設定する。	年間2回公開授業週間を設け全教員が授業を公開する。 該当学年の児童生徒全員のアセスメントに係る会議を実施する。 研究授業の機会を年3回以上設定する。	A B A	6月と10月に公開授業週間を設け、全教員が授業を公開した。1月には全校授業研を開催した。 学部主事、支援部を中心に児童生徒全員のアセスメントに係る会議を実施した。 3名の中堅教諭等資質向上研修対象者の研究授業・校内研修会に年間を通じて学習指導支援員を招聘し学ぶ機会を設定した。	育てたい児童生徒像の共有を図った。その姿を実現するため一人一人の実態をより丁寧に把握できるような仕組みを校内で整備する。授業改善の取組として近隣の学校（小・中・高等学校）の授業参観を実施したが、今後も継続して取り組み本校の実践に活かす。
2	学校運営協議会やPTA、地域資源等を活用し、病弱支援学校の児童生徒の新たな可能性を引き出す取組を進める。	B	ゲストティーチャーなどによる体験型授業を計画的に実践し、児童生徒の学びの質を高める。 テレワークなど新しい働き方を学ぶ機会を通じ、キャリア教育の充実を図る。 児童生徒が外部機関と連携した活動に参加する。 感染症等の状況をふまえ、病院と連携しながら学習環境を整備し、学習活動の充実を図る。	一学部・二学部それぞれが年間5回以上実施する。 児童生徒が授業の様子を振り返る機会を設定する。 年間を通じて、学校運営協議会委員等の協力を得てキャリア教育を実施する。 児童生徒自身が参画する地域活動を実施する。 病棟連絡会を核に、学習活動・内容の充実を図る協議・調整を行う。	A A A A	一学部は5回以上、二学部は10回以上外部講師を招聘し、新たな気づきや学びを深める体験型授業に取り組むことができた。 学校運営協議会委員によるキャリア教育の授業を高等部2年生に年間8回実施し、職場見学にもつなげることができた 中学生徒が公民館講座の講師となり、地域活動に参画した。 病院と情報交換・連携を図り、病棟内での演奏会を実現することができた。	美浜町中央公民館との連携・協働した取組を多数実現できた。今後も本校の取組に地域資源を取り入れ、児童生徒の活動の幅を広げるため計画的な取組を進めていく。PTA活動に関してはコロナ禍で中断したものが多く、保護者同士のつながりをつくる新たな取り組みを模索する必要がある。
3	災害や事故発生時に適切な行動がとれるよう、継続的・計画的に訓練に取り組み、安心・安全な学校運営を進める。	B	災害発生時だけでなく、避難生活も想定した訓練を実施する。PTA、美浜町等の行政機関と連携を強化し、防災体制整備を進める。 常に事故発生など緊急事態を想定し、的確な対応ができるよう意識の向上を図る。	年2回以上避難訓練や教員研修を実施する。 PTA、消防署・美浜町防災課に情報を発信し、連携の強化を図る。 行事計画等では事故発生を想定した計画の作成を意識づける。 ヒヤリハット事案を蓄積し、教員で共有する仕組みをつくる。	B B	年4回災害避難訓練を実施。内1回は近隣の作業所等と合同で実施した。PTAと連携した活動には取り組みなかった。 行事計画等では事故や災害発生を想定した計画を作成した。ヒヤリハットは学部の職員朝礼で共有した。	学校の立地から地震・津波発生への危機意識を持ちシミュレーション訓練に取り組んだ。災害時における事業継続計画を見直したが、通学学区が広域にわたるため、早急にPTAとの連携について考えていく。ヒヤリハットは全校で共有できる仕組みを再考する。
4	地域でのセンター的役割を果たすため、病弱支援教育の専門性の向上を図る。	B	県内の当該教職員を対象に病虚弱教育に係る研修会を開催する。 校内での組織的な教育相談ができるよう、学校全体で実態把握のための知識（スキル）の向上を図る。	県病弱教育研究会を開催し、多岐にわたる病気の指導事例を取り扱い支援の質の向上を図る。 該当学年の児童生徒全員のアセスメントに係る会議を実施する。（再掲）	A B	研究会では多様なテーマを取り上げた。また、和歌山大学との共同研究にも参画し、知見を得る機会ができた。 学部主事を中心に、課題のある児童生徒のケース会議を開催し、見立てから具体的な支援へつなげる技量の向上に取り組むつつある。	和歌山大学との共同研究は今後も継続し、多様化する本校の児童生徒の実態や特性等をふまえた実践につなげていきたい。専門性継承の視点からケース会を継続していくが、問題対応型から未然防止・発達支持的な取組へと転換していく必要がある。

学校関係者評価（2月7日実施）

- 二学部児童生徒学校評価アンケート結果
「そう思う」「どちらかというと思う」が高い項目
・先生は、児童生徒の相談にのってくれると思いますか。
・授業は、分かりやすいですか。
・避難訓練等を通して、防災教育への取組が行われていると思いますか。
- 二学部保護者学校評価アンケート結果
「そう思う」「どちらかというと思う」が高い項目
・児童生徒の特性に応じた支援や指導がおこなわれていると思いますか。
・本校では、学校行事等で充実した体験学習などがおこなわれていると思いますか。
・防災・防犯に関する取組をおこない、児童生徒の安全の確保に努めていると思いますか。
- 学校運営協議会委員評価（自由記述）
・いつも先生方の生徒一人一人に向き合う姿勢や活動に刺激をいただいています。一方で、社会はどんどん多様になり、社会に求められる人材像も多様化する中で、先生方にお話する機会があれば嬉しいです。
・様々な体験活動を通じて、子どもたちの自己肯定感や自尊感情を育成している取組は見習うべきであると感じました。
・授業については生徒たちが興味を持って受けています。また、職場体験、社会見学など体験学習が充実してこのまま続けてほしいと思います。
・会の中でも話したのですが、先生方は子どもの実態を見定めて様々な活動を実践されていると思います。今後もこうであってほしいと思います。
・みはま支援の中だけでなく、外部と通じた様々な研修を実践されていることは素晴らしいと思います。今後とも、貴校の持っている特別支援教育の専門的な知識を各校に引き続き伝授して頂ければと思っています。